

新設教科 まちづくり科の創造

郷土を愛し、まちづくりに主体的に参画できる子どもの育成

目標

郷土について知り、公共のために役立つ活動やまちづくりの実践等、積極的で主体的なかかわりを通して、郷土を愛する心や社会の形成に寄与する心構えを育て、郷土をよりよくしていこうとまちづくりに参画する態度を育成する。

段階及び領域

自律期
中学2・3年



自己発見期
小学5年～中学1年

人と人との
ふれあい



交流と
にぎわい

基礎確立期
小学1年～4年



伝統・文化
自然



琴平町には金刀比羅宮ことひらぐうにまつわる歴史や伝統文化、象頭山や金倉川などの豊かな自然、こんぴら参りに由来するまちの賑わいや多様な人々とのふれあい、金毘羅歌舞伎に代表されるまちおこしなど豊かな教材を有する。しかし、これまで子どもたちの多くは自分たちが暮らすまちのよさにふれたりそれを支える地域の人とふれ合ったりする機会がほとんどなかった。そのため、故郷琴平への誇りや愛着も高くはなく、まちの一員としての意識や公共物や文化財、自然などを大切に
する意識なども低かった。こうした地域（ひと・もの・こと）離れは、現代社会に生きる子どもたちの現状に広く通ずるものであると考える。

こうした地域や子どもたちの実態を受け、一昨年度より琴平小学校・榎井小学校・象郷小学校・琴平中学校は文部科学省の研究開発学校の指定を受け、新設教科まちづくり科の創造に向けて実践研究に取り組んでいる。

○ 目標

まちづくり科では、郷土に対する理解と愛情を深め、社会に働きかける意欲と態度を育成することをねらいとしている。

○ 段階

小学校・中学校をまちづくりの基礎となる体験をする基礎確立期、参画しようとする態度を育てる自己発見期、主体的に参画する自律期という3つの段階に分けて目標を設定している。

○ 領域とそのねらい

まちづくり科の内容は、まちを構成する多様な人と出会い、そのかかわり方やみんなにとって幸せなまちを構想する「人と人とのふれあい」、産業や観光、祭などによるまちおこしを調べ、まちの活性化に取り組む「交流とにぎわい」、琴平というまちの個性を浮き彫りにし、それらを守る方法に取り組む「伝統・文化・自然」という3つの領域から構成されている。

まちづくり科

時数の増減

学年	国語	社会	生活	図画工作	家庭科	総合	まちづくり
1年	296 (-10)		80 (-22)	66 (-2)			34
2年	305 (-10)		83 (-22)	67 (-3)			35
3年	235 (-10)	50 (-20)		60		30 (-40)	70
4年	235 (-10)	70 (-20)		60		30 (-40)	70
5年	160 (-15)	90 (-10)		47 (-3)	58 (-2)	35 (-40)	70
6年	160 (-15)	95 (-10)		47 (-3)	58 (-2)	35 (-40)	70

○ まちづくり科に関する時数の増減（平成23年度）

目標や領域のねらいから考えると、以下のような教科内容の一部がまちづくり科に含まれることになると考えた。

- | |
|--|
| <p><国語科> 人と人とのコミュニケーションに関する単元</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話す・聞く，書く領域の言語活動を行う単元（全学年） <p><社会科> 公共性や伝統・文化，地域の産業に関する単元</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の公共施設，地域の産業，地域の安全を守る仕事（3年） ○ 地域の健康を守る仕事，地域の発展に尽くした人々，地域の伝統工業（4年） ○ 国内生産につながる地域の特産物，地域の環境や森林を守る活動（5年） ○ 地域の歴史・文化遺産を活用できる単元，政治単元（6年） <p><生活科> 地域の自然や人々の生活に関する単元</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校のまわりの散歩，昔の遊び，家の仕事（1年） ○ 季節の自然とふれ合う活動（1年） ○ 町探検シリーズ（2年） ○ 生き物を育てよう（2年） <p><図工科> 絵などの表現，鑑賞に関する単元</p> <p><家庭科> 伝統・文化に関する単元</p> |
|--|

学年	学期	概観		
		人と人のふれあひ	交遊とにぎわひ	伝統・文化・自然
1	1	<input type="checkbox"/> 貴道な人々 [11] ・ 地域のお年寄り		<input type="checkbox"/> 貴道なまちの参観 [21] ・ 学校の参り調べ ・ 神事場の参り調べ ・ 神楽の参り調べ
	2	<input type="checkbox"/> 貴道な人々 [21] ・ 婦人会 ・ 高校生 ・ 筑後園児	<input checked="" type="checkbox"/> お参りに参り [2年] [11]	<input type="checkbox"/> こころの参り [11] ・ 正調こころの参り ・ 佐藤さん ・ 今と昔のこころの参りの紹介
	3	<input type="checkbox"/> 貴道な人々 [21] ・ 地域のお年寄り		<input type="checkbox"/> 貴道なまちの参観 [21] ・ 高瀬産 <input checked="" type="checkbox"/> クリーン作戦 [1-3年]
2	1	<input type="checkbox"/> 貴道な人々 [21] ・ 地域のお年寄り		<input type="checkbox"/> 貴道なまちの参観 [21] ・ 神事場 ・ 精進 ・ クリーン作戦
	2		<input type="checkbox"/> 地域のお参り [11] ・ 庄子帯 ・ 大鼓お <input checked="" type="checkbox"/> お参りの参観 [1年]	
	3			<input type="checkbox"/> 貴道なまちの参観 [11] ・ 大セツタン <input checked="" type="checkbox"/> クリーン作戦 [1-3年]
3	1			<input type="checkbox"/> 地域に結ぶ古いもの [21] ・ こころの参り ・ 水吉・徳社・徳社 ・ 筑し帯・こころの参り ・ ガイドカード
	2		<input type="checkbox"/> 校庭のまち参観 [21] ・ 商店街 ・ インターアップ	
	3	<input type="checkbox"/> 安全を守る人々 [21] ・ 子ども110番 <input type="checkbox"/> 公民館 [11] ・ タイサービスセンター ・ ちよつと市場 ・ ACTことひら	<input type="checkbox"/> 校庭のまち参観 [11] ・ キャラクターづくり	<input type="checkbox"/> 地域に結ぶ古いもの [21] <input checked="" type="checkbox"/> クリーン作戦 [1-3年] ・ リーダーとしての役割

学年	学期	概観		
		人と人のふれあひ	交遊とにぎわひ	伝統・文化・自然
1	1			<input type="checkbox"/> 森のこころの参り [21] ・ 五輪道 ・ 鬼道 ・ 遊道 ・ 丁石 ・ 鳥居 ・ 湯太 ・ 東海道五十三次 <input type="checkbox"/> 校庭の参観 [11] ・ 佐倉田
	4		<input type="checkbox"/> 森のこころの参り [21] ・ 三木会 ・ ガイドウォーク	<input type="checkbox"/> 校庭の参観 [11] ・ 佐倉田
	2		<input type="checkbox"/> 森のこころの参り [11] [11]	<input type="checkbox"/> 校庭の参観 [11] ・ 佐倉田
2	1			<input type="checkbox"/> 森の歴史と参り [21] ・ 佐倉田
	5	<input type="checkbox"/> 人にやさしいまちづくり [17] ・ 車椅子・高齢者参加体験 ・ バリアフリー	<input type="checkbox"/> 森のまちおこし [21] <input type="checkbox"/> こころの参り体験大花巻によるまちおこし [11] ・ お参りさん ・ 商工会青年部	
	3		<input type="checkbox"/> こころの参り体験大花巻によるまちおこし [11] ・ 本P参者	
3	1	<input type="checkbox"/> 森のまちおこし [11] ・ 本P参者 ・ ボランティア体験		<input type="checkbox"/> まちの参観 [11] ・ 築山山神楽 ・ 日本舞鳥の会 ・ パードウォッチング
	5	<input checked="" type="checkbox"/> まちづくりミーティング 1対1 中の参観 [14]		
	2	<input checked="" type="checkbox"/> 人にやさしいまちづくり [21] ・ 森のまちおこし [11] ・ 森のまちおこしに ・ 参り体験	<input type="checkbox"/> 森のまちおこし [11] ・ 森のまちおこしに ・ 参り体験	<input type="checkbox"/> まちにある日本文化 [11] ・ 参り ・ 伊藤さん ・ 門山伝承 ・ 高橋さん
3			<input type="checkbox"/> 森のまちおこし [11] ・ 森のまちおこし ・ 参り体験	
	5	<input checked="" type="checkbox"/> こころの参り体験 [21] [21]		
	3			

○ カリキュラムの作成・修正

目標や領域のねらい，発達段階にともなう地域に対する参画態度などを基に3小学校に共通する全体カリキュラムを作成した。これはそれを基に本校に有する教材を見つめながら作った琴平小学校版カリキュラムである。本年度は生活科の学習内容とのさび分けを低学年で行ったり参画態度を培うべく単元に必要な時間数を見つめ直したりするなどの修正を加えている。



○ 単元モデル

私たちは当初、地域教材を用いた総合的な学習や社会科などの単元展開を基に試行錯誤しながらまちづくり科の単元をつくってきた。実践を経る中で、地域（ひと・もの・こと）に対する愛着や共感を高め、参加・提案に取り組む単元の流れを考えると、上図のようになるのではないかと考えた。

課題を見出す「対象との出会い」の段階。ひと・もの・ことにかかわりながら対象のよさや支える人の働き、そして自分とのつながりを理解していく「対象の背景を探る」段階。この2つの段階でまちに対する愛着や人に対する共感を深める。

そして問題点を見つけ、解決に取り組む「対象に働きかける」段階。この段階でまちづくりに参加・提案する態度を培いたい。

現在はこうした単元モデルに基づいて単元構成を考えている。

まちづくり科 ② 教材開発のアウトライン

モデルとなる人との出会い



改善に向けた行為と心が…
人への共感へ

まちを愛する人の存在が…
まちへの愛着へ



○ モデルとなる人との出会い

まちが数々の問題を乗り越え、発展してきたのは、よりよき未来をめざしてまちに暮らす人々が工夫や努力を積み重ねてきたからである。「郷土をよりよくしていこうとまちづくりに参画する態度」を育成するためには、そうした子どもたちの将来のモデルとなるよりよき社会人と出会う場が必要だと考える。こうした人の工夫や努力を教材とし、「まちにどのようなよい影響を与えたのか」、「まちをよくすることにどのような役割を果たしたのか」、「どのような願いから工夫や努力を始めたのか」を追究させたい。そうすることで、子どもたちはまちをよりよくしようと願う人の工夫や努力がまちの発展につながっていることを理解することができる。このようなまちを愛する人の存在が子どもたちのまちへの愛着へ、まちをよくしようとする行為と心が人への共感へ、そして次なる自らの取り組み（参加・提案）へのエネルギーにつながっていくと考える。

まちづくり科 ③ 支援

関心・意欲を高める手立て

期待感を高める 聞き取り調査



家族や地域の人
観光客から
まち(対象)のよさを
聞き取る

憧れを引き出す 体験活動



まち(対象)のよさ
際だつ場の設定
比較の対象の設定

知的好奇心を刺激する 資料や視点の提示



イメージとズレのある
資料
不完全資料
夢のある視点

○ 関心・意欲を高める手立て

子どもたちが関心・意欲を高め、追究にかきたてられるようになるのは、対象に対する疑問や驚き、憧れなどの思いを抱いた時である。単元の導入では、子どもたちが対象にそのような思いを抱くことができるよう、次のように支援したい。

☆ 期待感を高める聞き取り調査

商店街やこんびら歌舞伎など、地域にあり地域で行われていても、子どもたちの一部或いはほとんど全員が経験したことがないようなことも多い。そうした場合には、経験したことがある家族や地域の人、観光客などに対象のよさを聞き取り調査することで対象に対する期待感を高めることができる。

☆ 憧れを引き出す体験活動

商店街で作られる和菓子の試食や金丸座の見学などの体験活動を行うことにより、対象に対する憧れを抱かせることができる。しかし、それには比較する対象を設定するなど、対象のよさが際だつような場の設定や事前の調べが必要である。

☆ 知的好奇心を刺激する資料や視点の提示

崩壊寸前の金丸座の写真など対象に対する経験やイメージとズレを生じる資料を提示することで、子どもたちは驚きや疑問を覚え、追究意欲を高めることができるようになる。また、昔の部分だけが空白となった年表など不完全資料を提示したり「琴平を世界遺産にすることができるだろうか？」と夢のある視点を提示したりすることで子どもたちの知的好奇心を刺激し、対象を追究する意欲を喚起することができる。と考える。

まちづくり科 ③ 支援

言語活動を充実させる手立て

活動前

よりよい話し方、
聞き方、コミュニケーションのとり方、
情報活用の仕方
について話し合う



活動後

活動の際の自
分の学び方を見つ
め直す

○ 言語活動を充実させる手立て

まちづくり科では、まちで暮らしたりまちを訪れたりした多様な人々と単元を通して繰り返し交流したり聞き取り調査をしたりする。また、こうした相手に対して手紙を書いたり自分たちの考えを発表したりする活動も多い。これは言語活動という視点から見れば、国語で学んだ「話す・聞く力」「書く力」を実の場で生かしていることに他ならない。こうした「話す・聞く」活動や「書く」活動に際しては、各学年の国語の目標や指導内容に即して事前に学び方について話し合いたい。そして、共通理解したことを評価の視点として活動の際や事後に自分の学び方を見つめ直す場を位置付けたい。

多様な人々と交流したり共に活動したりする場では、「話す・聞く力」よりも相手にかかわったり受容したりするコミュニケーションのとり方に力点が置かれることもある。また、図表やグラフなどを適切に選択・活用し、相手に分かりやすく説明する情報活用の仕方に重点が置かれるときもある。そうした場合にも前述の「話す・聞く力」と同様、事前の学び方の共通理解と活動の際や事後の評価を単元にきちんと位置付けたい。

まちづくり科 ③ 支援

参画態度を高める手立て

地域の現状を見つめ直す

現状とのズレを印象づけるため、対比できる学習を事前に展開

解決策を話し合う

- モデルとなる方とともに行動できるように活動を組織
- 高学年
自分でできること、町や地域の人をお願いすることを検討

解決策に取り組む

取り組みを評価する

- 成果の分析
 - ・ 自分に対する自信
 - ・ 次なる問題に前向きに行動する意欲を喚起
- 課題の分析
 - ・ 継続的に取り組む必要性
 - ・ 取り組み続ける人への畏敬の念

○ 参画態度を高める手立て

参画態度を高めるためにはまちや地域の人に対する愛着や共感を深めた後、以下のような順で活動を位置付けることが必要だと考える。

<地域の現状を見つめ直す場の設定>

課題解決に向けて子どもたちが行動を起こすためには、地域の抱える問題点やその影響の大きさを子ども自身が考え、理解しなければならない。そのために人通りの少ない商店街や誰にも注目されず壊れている燈籠など、地域の現状を観察させる場を位置付ける。

その際、事前に長い経験に裏打ちされた店の人がいる商店街のすごさや昔のこんぴら参りの隆盛など対比できる学習を展開しておくことで、現状とのズレを子どもたちに印象づけるようにしたい。こうしたズレが子どもたちの改善に向けたエネルギーになると考える。

<解決策を話し合う場の設定>

解決策を話し合う際には子どもたちの発達段階に留意しなければならない。子どもたち自身の手でできることには限界がある。

神事場の掃除をしている高齢者の方やガイドウォークをしている三水会の方というように活動のモデルとなり、一緒に行動できる方と活動を組織することも大切だと考える。

活動や思考の幅が広がる高学年では、多様に解決策を考えた後、自分たちでできることと町にお願いすること、地域の方とともに取り組むことを検討しなければならない。その際、必ず自分たちでできることに取り組むようにしたい。他に依頼するばかりで自ら行動しなくてもよいという考え方は、権利だけ主張して義務を行わないという態度につながり、将来のよりよい社会人として望ましくないからである。

↓ iii 解決策の実行

本校では地域への参画として以下のような取り組みを行っている。

- 神事場などの清掃
- 五街道のガイドウォーク
- 地域の緑を増やす活動
- 商店街のキャラクターづくり
- 木戸芸者などこんぴら歌舞伎の手伝い 等

↓ iv 取り組みの評価の場の設定

解決策に取り組んだ後、その成果と課題を見つめ直すことも大切である。

成果を分析することで子どもたちは地域に貢献できた喜びを感じ、自分に対する自信を深めることができる。そして、次なる地域の問題に出合ったとき、前向きに行動する意欲をもつことができると考える。

また、課題を見出すことで子どもたちは問題解決の困難さを感じ、それらに継続的に取り組むことの必要性やそれらに取り組み続けている地域の人たちへの畏敬の念を高めることができると考える。

このように自分たちの取り組みを評価する際には、共に取り組んだ方や専門家の方にも参加していただき評価していただくことが成果や課題を実感する上で望ましい。

まちづくり科 ④ 経験・関心を広げる手立て

行事の工夫・活動の組織



地域を探検！オリエンテーリング



婦人会によるこんぴら船々の指導



琴平高校伝統芸能クラブによる
正調こんぴら船々の実演

○ 地域のひと・もの・ことに対する経験や関心を広げる手立て

琴平には豊かなひと・もの・ことがあるにもかかわらず、子どもたちはそれらに接した経験が思いの外少ない。そこで、そうした経験やそれらに対する関心を広げるため、次のように活動を組織したり行事を工夫したりして、子どもたちが地域に暮らす多様な人々と交流したり自主的に地域の人・もの・ことへアンテナを張り巡らしたりすることができるようにした。

＜地域を探検！オリエンテーリング＞

琴平のよさを楽しく広く学ぶ機会を作ろうと、昨年11月10日に異学年のチームに分かれて山下を舞台にオリエンテーリングを行った。出題や引率などで琴平高校の方にご協力いただいた。琴平山から榎井に至る広い地域を巡った子どもたちは、呑象楼や春日神社といった他校区の文化財を見たり大久保謙之丞や長谷川佐太郎などの業績にふれたりして、楽しく見聞を広めていった。

＜地域の婦人会によるこんぴら船々の指導＞

本校では運動会のフィナーレに毎年こんぴら船々を踊っている。一昨年度から婦人会の方の協力を得て子どもたちに正しく美しい踊り方を指導いただいている。「掌を上に向けてお供えするように」とか「帆がたなびくように腕を振って」というように由来にまつわる指導をいただくなどして、子どもたちの踊りもとても上手になった。

＜琴平高校伝統芸能クラブによる正調こんぴら船々の実演＞

昨年度、運動会のこんぴら船々の総踊りのはじめに琴平高校伝統芸能クラブの皆さんに正調こんぴら船々を実演していただいた。三味線や締太鼓の演奏、朗々とした歌声、着物姿で踊る集団美。中には本校の卒業生もおり、子どもたちは目を輝かせて踊りを見ていた。地域の踊りの伝統を肌で感じるひとときとなった。